

・今回の個別フォローでは、7月に10プロ内で起きた退会の話を探掘りし、また7月に私が研究でやっていた新しいチャレンジについても話をしました。

年間目標を立てて、一緒に変わろうと悪あがきし、挫けそうな時は励まし合い、時に熱く討論した仲間が抜けてしまったことへの感傷はありつつ、もうダメかなと感じて、送る言葉は少ししか出て来ませんでした。

「実は変わらない方が都合が良い」という事実気付いてしまったというものの見方も教えてもらいました。

変わることで不都合を認識しているからこそ、無意識に変わらない方、変わらない方へ力が働いてしまっているのだろう。

「ドリームキラー」という言葉もある通り、人が変わろうとする時、案外そばに居る人が足を引っ張る存在になるのかもしれない。

(逆に10プロのメンバーはそばにいないからこそフラットに応援できるという側面もあるのだと思う)

そして、自分は敵わないと思う存在に気づき、更にそれが年下の人ばかりだったことが辛かったのかもしれないということも話題に上がりました。

IT分野では若手の方が優秀なことはよくあることで、私自身も至らない、悔しい、何とかならないかと思うことはままありました。

実力を付ける必要があるという意味で、そんな気持ちを感じることが良い訳では無いのですが、抜かされていくことを辛

いという方向ではなく、曲がりなりにも自分を発奮させる方に持って来れたことは良かったのかなと思いました。

そして、ちょっとしたきっかけで実現に向かった研究の種まきについて、陽子さんが採用活動を始められた頃と同じような、結果の見えないことに挑戦する恐さと冒険心について共有できたと思います。

本当の研究は失敗や無駄の山から生まれるもの。  
これまでの私は過去の蓄積の延長線から研究を描いていました。

リスクたっぷり、成功の可能性は不明、ただ自分の中にやりたい気持ちがあるだけ。

それでも、そういった研究の種を見つけられたかもしれないこと、それを陽子さんに共有できたことは非常に嬉しいと思いました。

(A.S 40代女性 北海道)